

「Maker Faire Tokyo 2019」 木育ひろば出展

三幸林産株式会社

馬田 勝之

8月3・4日、東京ビッグサイトにて「Maker Faire Tokyo 2019」に木育ひろばを出展致しました。

「Maker Faire」はこれまでになかった便利なものを作り出す「Maker」が集い、ワークショップも、多数用意され、実際にものを作る体験を行うことも可能な世界最大規模のDIYイベントです。

旧木場プロジェクト(The深川WOOD FESメンバー)から参加企業を募り、本イベントでは4社(長谷川萬治商店、一條ランバー、協和木材産業、三幸林産)がそれぞれブースを出してワークショップを行いました。地球温暖化の影響を受ける動物の象徴として「ペンギン(ジェンツーペンギン)」をテーマにした木のワークショップを実施、木に親しんで頂くため小学校低学年から製作可能で、家で使って頂ける商品のワークショップを行いました。ブースのセンターでは木のスポーツ「クップ」の卓上盤も考案し実演いたしました。

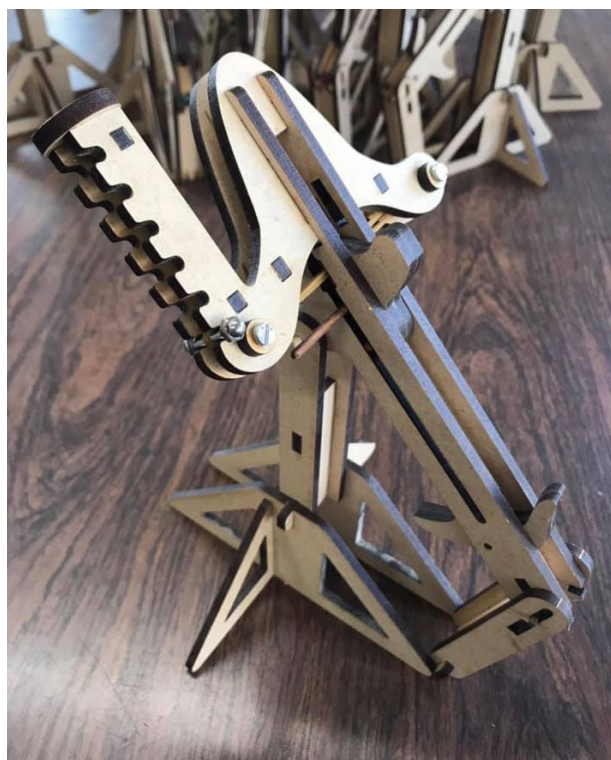
テーマのペンギンは見た目の愛くるしさはもちろん、陸と水の中の動きの違いが面白く、デザインのしやすさ、そして南極の生態系を維持するには温暖化を防がなければならない。そのためには、木材などサステナブルな素材を重視していくことをPRする。大勢の来場者に木に親しんでもらうための、掴みとしてペンギンのキャラクターは



効果がありました。ペンギンマニアの人も来場してくれて、ブースに来ると手作りのペンギンの人形を見せてくれました。「鳴くんですよ」とおもむろにスマホを操作すると、ペンギンのリアルな鳴き声が。そのあとその男の子は自前のペンギンの被り物まで被ってくれたので、記念に写真を撮りました。Tシャツのイラストもペンギンでした。他のブースでもペンギンを前面に押し出したので、木に興味が無い方もブースを覗いていかれる方が多く見られました。

世界初!の卓上クップ(テーブルクップ)は通常屋外で薪を投げチーム戦で競い合う競技を室内で楽しく出来るように今回初めて製作・開発したものです。

薪投げのシューティング装置は秋川木材の向殿さんに製作を依頼しました。屋外クップでは下手投げがルールですが、向殿さんの技術により絶妙な距離感とシューティング力を兼ね備えたピストル型の発射装置が出来上がりました。





シューティングゲームの感覚で楽しめ、子どもから大人まで夢中になる企画となりました。ゲームの開催時間にはテーブルクッパの周りに人だかりが出来るほどで、子供たちはクッパ競技は知らなくてもシューティングが楽しくて夢中になり、成功しても失敗しても笑顔が絶えませんでした。

長谷川萬治商店様では、木に色付けして作る、光るジェンツーペンギンのバッヂが好評で用意した200個が完売しました。

一條ランバー様では、木製貯金箱を組み立て、好きなシールをデコレーション出来るワークショップで常に満席の状態でした。

協和木材産業様では、何にでも使える WOODBOX を組み立て、想像力の膨らむ使い方を提案されていました。プランターになったり、間接照明として使えたり、木を選ぶ楽しさから使い方まで木の話が飛び交う場となっていました。

三幸林産では南極大陸の形を台座にしたフォトスタンドを企画しました。レーザーカットした様々なペンギンを飾って完成させます。新たに開発した木製スマホスピーカーも販売致しました。皆さん足を止めてスマホから拡散される音の大きさに驚いていました。



全般に各ブースとも参加者、購入者共に女性が多かったことも木に関心があるのは、むしろ女性ではないかと確信いたしました。子供が喜んで遊ぶ、部屋をおしゃれに飾る、自分だけのオリジナルが簡単に作れる、環境にやさしいなど。男性が興味を持つ高級感とか、カッコ良さのようなものは二の次だと感じました。

今後もこのようなイベントに参加していくことが増えてくるかもしれませんが、木に対するニーズはどこにあるのか、応えられているのか、様々考えながら良い商品作りをしていきたいと思います。